

平塚市土屋に生息するオオクワガタ

上田尚孝

Naotaka Ueda : On the *Dorcus curvidens hopei* in Hiratsuka City

はじめに

神奈川県下においてオオクワガタは、記録もほとんどなく、絶滅も心配されるきわめて稀な種である(高桑, 1990)。今回平塚市土屋において、かつての記録(木附, 1991)に続き、本種が相次いで採集されたため、本種の確実な生息地域として発表する。過去の神奈川県内の記録では、他に鎌倉、横須賀(高桑, 1990)、震生湖(藤田, 1995)等があるが、このうち鎌倉は古い記録であるうえ、横須賀市子安の里(志村 1988)の産地も、現在は湘南国際村の造成によって環境は完全に破壊されている。このような現状から、この地域は県内に残された貴重な生息地と推測される。ここでは、これまでの観察結果をもとに、本地域における本種の生息状況と形態の特徴について述べてみたい。

なお発表にあたり、文献などでお世話になった神奈川県立博物館の高桑正敏・苅部治紀の両氏にお礼申し上げる。

採集データ

平塚市土屋 : 1 ♂, 15.VI.1995, 1 ♂ 1 ♀, 17.VI.1995.
上田尚孝採集。(図1)

形態の特徴

個体A・Bは大歯型の大顎を持ち、体長は60mm前後のものである。個体Bは越冬個体と思われるが、個体A・Cは大顎のすり減りや外傷もなく、ほぼ完全な形で採集されたことから、まだ、極めて新しい個体と思われる。♂大歯型の形状は、地理的に近い甲府盆地周辺の個体群に非常に近く、関

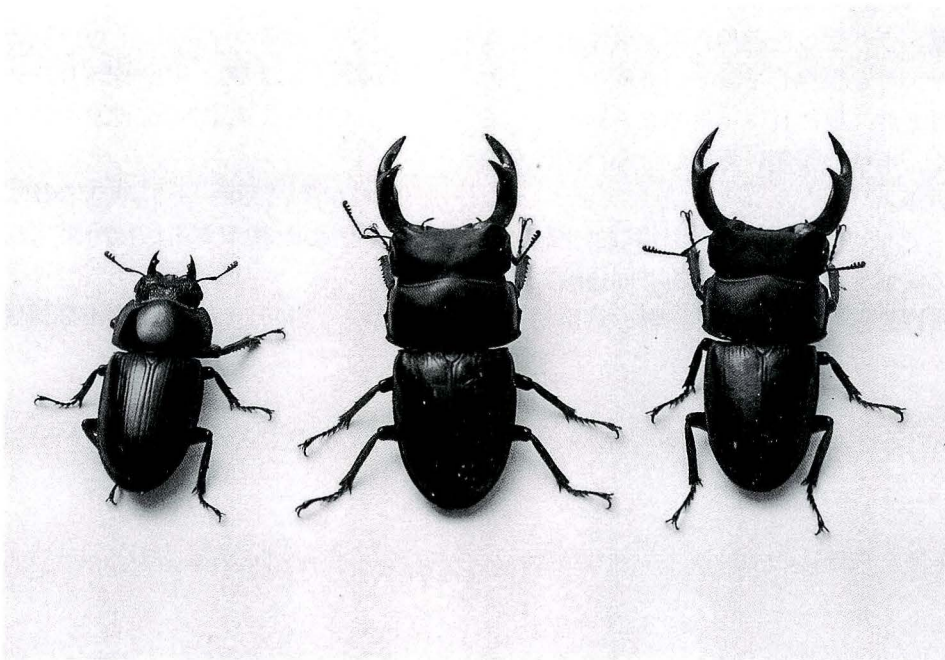


図1. 採集個体：右よりA. B. Cの順

♂大歯型個体A：クヌギの樹皮の隙間に隠れていた。15. VI. 1995. (台場クヌギの地表約2 m) ♂大歯型個体B：樹皮の浮き上がったクヌギの樹皮の裏から発見する。17. VI. 1995. (クヌギ地表約2 m) ♀個体C：個体Bと共に樹皮の裏に隠れていた。17. VI. 1995.

西以南のものとは明らかに異なり、直線的で弱い曲りを見せている。過去の資料でも横須賀市博物館に保管の大菌型個体（志村，1988）から同様の大型の形状と体型に関する変異が見られた。また個体Cは鋭い光沢を保った体長40mmの早だが、他の地方との顕著な違いは見いだせなかった。

なお、採集された個体Aは神奈川県立生命の星・地球博物館に、他の個体B、Cは筆者の手にそれぞれ保存されている。

秦野盆地周辺の生息環境

本種は過去、神奈川県内に広く分布していたものと思われるが、正式な記録はごく少ない。過去の三浦半島の記録（志村，1988）によれば、横須賀市子安の里周辺では本種の生息に適した環境が比較的整っていたようだが、現在は湘南国際村として開発が進み、その環境は破壊されてしまった。開発の進む現在、三浦半島周辺地域に生在する可能性は低いのではないかと考えられる。一方、丹沢、箱根を中心とする県西部地方では広範囲にわたって生息する可能性はあるが、なかでも秦野盆地を中心とする小田原市東部、中郡二宮町、大磯町、足柄上郡中井町、秦野市、平塚市西部、伊勢原市、厚木市西部地方にかけての雑木林は、現在県内で最も本種が生息するに適した環境が残されている。この地方の雑木林に足を踏み入れると、過去の伐採により生じた通称台場クヌギと呼ばれる巨大なクヌギが生育しており、直径1 m以上のものが多数ある。更に長い年月で立ち枯れているものも多く、本種の繁殖にも申し分ない条件を持ち備えている。

個体A～Cはいずれもクヌギの樹液の出始めの頃に成虫で採集されたが、その後、同地域にて新たに径1 m程の立ち枯れからこの種の終令幼虫と

思われるものが複数発見されている。なお、大木の中には大量の樹液と朽ちた部分を同時に持ち備えているものもあり、このような木一本で何世代も発生を繰り返すことも知られている。

本種は非常に警戒心が強く、基本的には大木の洞の中で生活しているが、6月初旬から中旬には空腹を満たすために、この時期にはごく限られている樹液の出る場所へ他の越冬型のクワガタムシ（コクワガタ、ヒラタクワガタ等）と同様に来集する。本種はそのような場所の中でも比較的身を隠しやすい樹皮の裏や幹の隙間などにひそんでいる。なお、夏の盛りには大木の洞の中でも樹液を出し始める為、再び洞の中へと身を潜めると言う生態をとる。

現在、平塚市周辺では、ゴルフ場建設等により、既に相当の数のクヌギの大木を失ったとみられるが、本種はこのような好条件を満たす大木や立ち枯れのある雑木林に依存度が高い為、今後、これ以上の開発やゴルフ場建設等が進むと、元来、甲府盆地などに比べて圧倒的に生息数の少ない神奈川県産オオクワガタは姿を消す危険性が大きい。

参考文献

- 藤田 裕, 1995, 秦野市におけるオオクワガタの採集例, 神奈川虫報 109: 32
木附嘉理, 1991, 神奈川県下におけるオオクワガタの記録について, 月刊むし 244: 33
高桑正敏 1990 甲虫の魅力ークワガタとハナムグリの世界, P33-35, 神奈川県立博物館特別展図録
志村和彦, 1988, 三浦半島でのオオクワガタの採集記録, 横須賀市博物館報 (35) P6

(川崎市高津区久末 511-49)